

特定テーマ1に対する企画提案

「市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる駅前広場の空間・建築デザイン」について

岡山の魅力を発信する情報拠点「OKAYAMA発信所」

●「岡山らしさ」だけでなく、本物の「岡山」に触れる場所をつくる

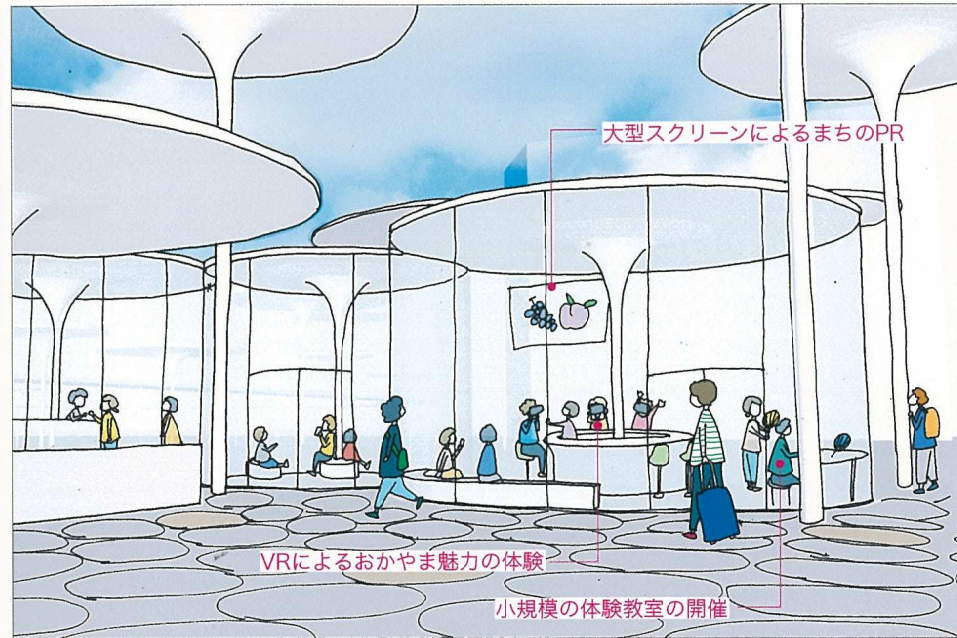
観光客・インバウンド旅行者に対して岡山を発信する場所として「OKAYAMA発信所」を公共交通案内所に併設します。

【OKAYAMA発信所の機能】

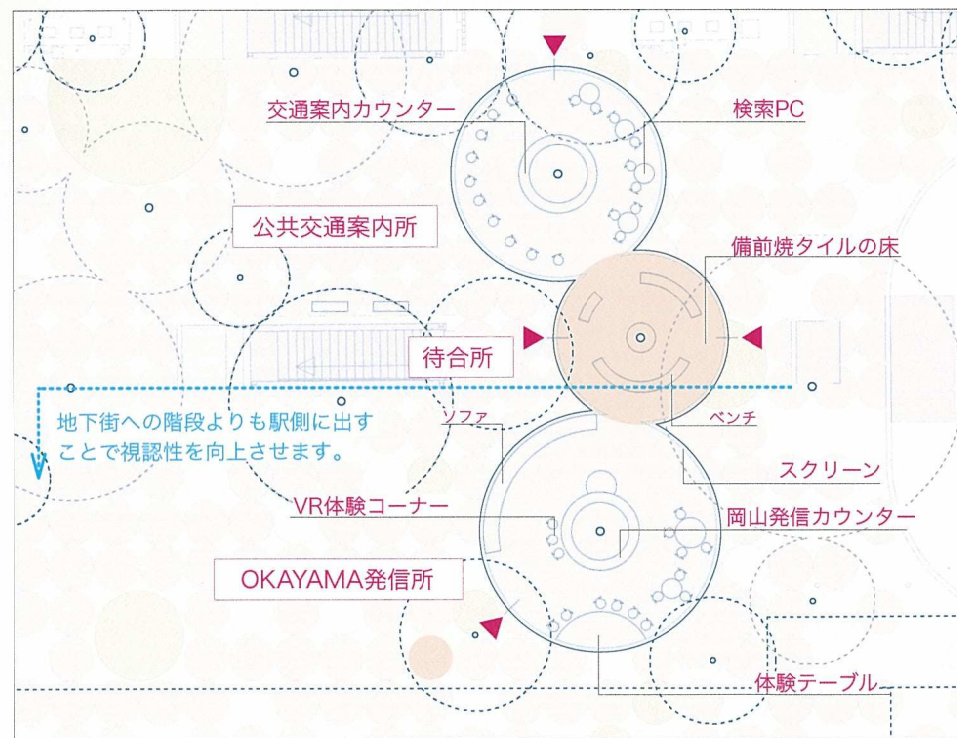
- ・岡山の工芸品の紹介や展示
- ・工芸品の製作工程の見学
- ・体験教室の参加、申し込み
- ・特産品の朝市
- ・映像による伝統工芸・産業・食などのインフォメーション
- ・VRカメラによる現地体験

「岡山らしさ」を紹介すると共に、実際にまちの各所に足を伸ばしてもらうきっかけをつくる場所とします。また、公共交通案内所兼待合所と併設することで公共交通と情報を集約でき、観光案内もしやすくなります。地元の人にとっても、地元の産業を知るきっかけにもなり、技術の伝承や後継者育成に寄与します。

●「OKAYAMA発信所」の利用例



●「OKAYAMA発信所」イメージ

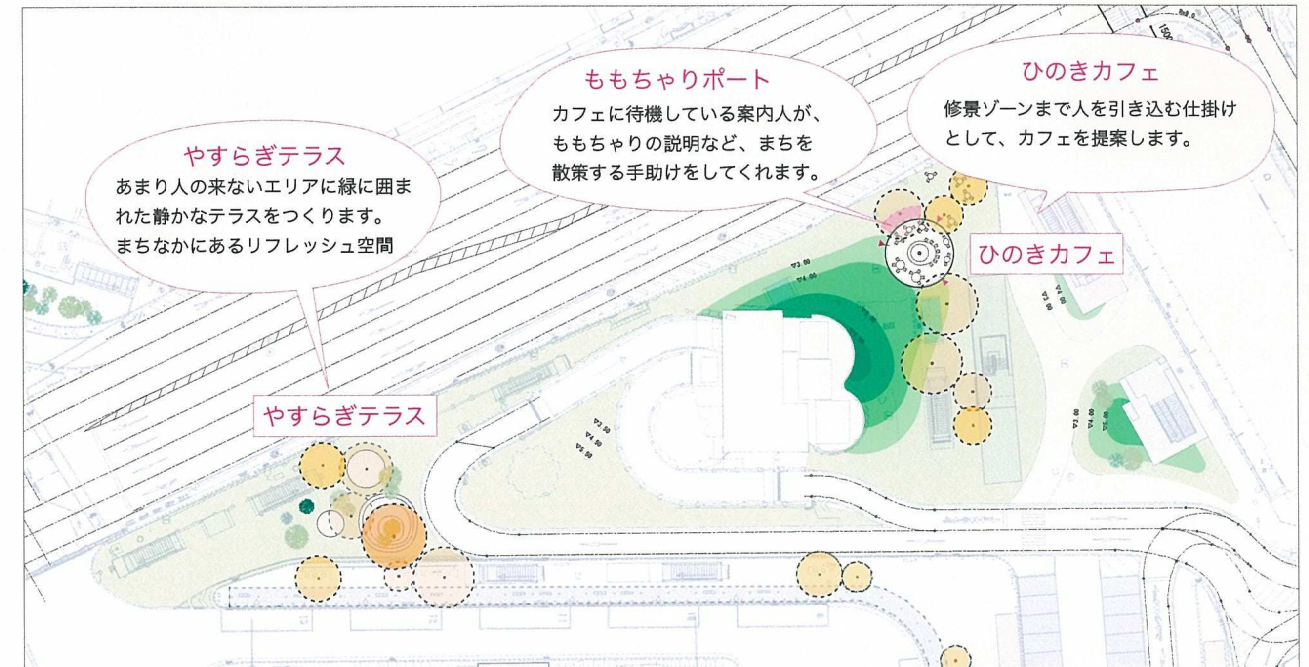


● OKAYAMA発信所平面図 1/300

自然の豊かな庭園都市 岡山を感じる緑のネットワーク

●広場にも緑を散りばめ、この場所から街中に緑が広がる「緑のデザイン」

修景ゾーンは緑に溢れたエリアとし、駅前に居ながらにして、緑のうらおいを感じることができます。シンボルゾーンの所々に植栽を計画し、駅から駅前広場に降り立った瞬間に緑を感じられる空間とします。また、桃太郎大通りまで積極的に植栽計画を行うことで、まちなかに緑のネットワークを形成し、中心市街地への人の流れをつくることも視野に入れます。



● 修景ゾーン配置図 1/1000

●修景ゾーンのつくりかた

植栽を整備して緑で覆い、駅前の緑化率を高めます。ターミナルスクエア側への歩行者の動線を緑を身近に感じる空間にします。

●人を引き込む、憩いの場をつくる

「ひのきカフェ」を提案し、修景ゾーンへ人の流れをつくります。また、南側の商業施設からも、駅前に人を取り込みます。

岡山県産材のひのきを内部空間に使用し、地元産業に貢献します。

●「おもてなし」を感じるももちやりポート市のコミュニティサイクル「ももちやり」の普及はまちの回遊性を高めます。カフェにももちやりポートを併設し、案内人がカフェに待機して、利用者に対し、使い方の説明やサドルの調整、岡山の案内などをしてくれます。案内人にはシルバー人材を配置し、人と人とのコミュニケーションで「おもてなし」をします。



●ももちやりポート併設の緑の中の「ひのきカフェ」

特定テーマ1に対する企画提案

「市民や来訪者が「岡山らしさ」を感じられる駅前広場の空間・建築デザイン」について

にぎわいをつくる「岡山らしい」夜間景観（空間提案）

●夜間景観検討・デザイン監修のご提案 今日駅前広場再整備において、その夜間景観形成検討は必須となっており、多くの市町で「あかりのマスタープラン」が策定されています。本市においても東口駅前広場からカルチャーゾーンに至る中心市街地全体エリアを鑑み、東口駅前広場の夜間景観計画を行うことが最適と考えます。また、岡山県の玄関口にふさわしい現代性のある照明設備の考え方の導入、最新の制御技術による省エネ配慮などをおすすめします。

●夜間景観形成方針（マスタープラン）による整備の事例



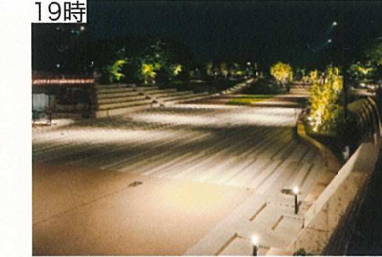
エリア別の整備方針を策定し、5年にわたって中心市街の夜間景観を整備。特ににぎわいを必要とするメリケンパークなどでは、モニュメントや噴水など夜間のにぎわい装置づくりも実施している（神戸市・チーム担当者事例）

●今日的照明環境へのアップデート例



色温度・グレアの改善、樹木ライトアップなどの間接照明など、今日ではあたりまえの照明手法の公共空間への導入（神戸市・同左）

●自動制御による公共公園整備の事例



点灯時間の長い道路・広場環境でもLED光源化となった今日では消灯せずに省エネが可能（草津市・同左）

①夜景デザインコンセプト

「人が主役」「まちが舞台」の岡山の新たな出発点「OKAYAMAひとまちスクエア」



イ.人が主役となるあかり

歩いて楽しく、佇みたくなる照明。記念撮影したくなる仕掛け。

ロ.まちが舞台となる仕掛け

シンボリックな建築を際立たせるあかり。様々なライトアップ。広場の使いこなしに有効な設備（例.マルシェ用コンセント等）

ハ.快適で安全安心な広場

鉛直面の明るさ感を高め、グレアの無い環境。岡山の玄関にふさわしい低色温度中心の照明計画

②デザイン方針検討

本提案の3つのキーワード

①岡山らしさの発信

- ①-a 「ここだけの」建築や装置の演出
- ①-b 岡山の物語を環境に活かす「影絵照明」等

明るさ感の確保

②にぎわいの創出

- ②-a 「遊べる噴水」「VR体験」などの工夫
- ②-b 広場の使いこなし設備の導入（コンセント等）

安全安心な配灯

③中心市街地への回遊性

- ③-a 樹木やランドマークのライトアップ等
- 回遊性を高める照明効果を中心市街に検討
- *中心市街地あかりのマスタープラン案検討

省エネ光源 自動点灯制御

③デザイン計画案検討

●フラット噴水



遊べる噴水は各地で大人気

●影絵照明



岡山の物語を視覚化 SNSで映える

噴水や影絵で楽しさのあふれるゾーン

●桃太郎像ライトアップ



樹木ライトアップや壁面演出、建物漏れ光により豊かな岡山を感じるゾーン



樹木ライトアップ 植栽演出

安全なロータリー

OKAYAMA発信所にぎわうあかりが素敵なゾーン

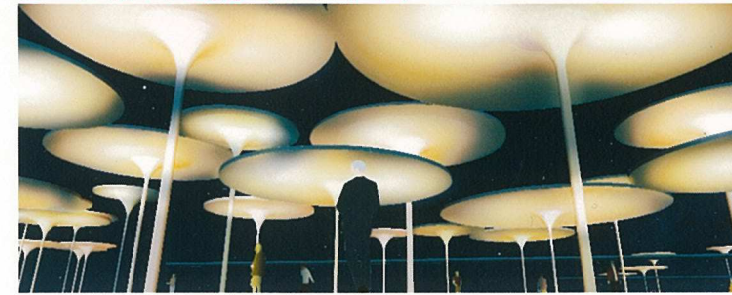
「マスカット屋根」のつくり出す岡山駅前にはかない夜景のゾーン

●発信所VRコーナー



紹介PV映像とVRカメラによる疑似体験によって、岡山の魅力を発信

●「マスカット屋根」のライトアップ



広場を象徴する「マスカット屋根」はアッパーライトで照射し明るさを確保。季節の歳時記に合わせてカラー変化もプログラム



「ピンクリボンデー」

収穫祭



ベンチ照明 間接照明 サイン

基本の照明は下方配光スポットライト照明を使用 グレアレス3000k

特定テーマ2に対する企画提案

「駅前広場を拠点とする周辺への歩行者優先の動線確保」について

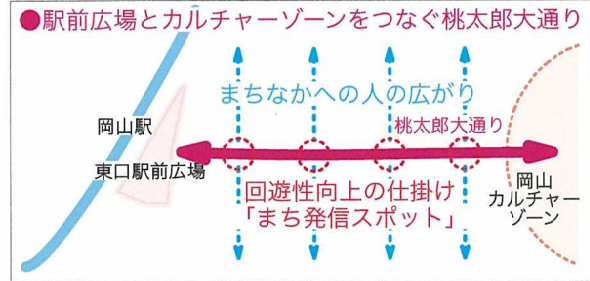
「歩きやすい」「わかりやすい」「もっと知りたい」まちに！
— 駅前広場から広がる人の流れをデザインする —

- 歩きやすい 休める場所があることやバリアフリーであること
- わかりやすい どこに何があるかを誰もが認識できること
- もっと知りたい 歩行空間にワクワクさせる演出がされていること

にぎわいが漂う歩いて楽しいシンボル通り

●桃太郎大通りを光と緑で演出し岡山のまちに繰り出すワクワクを高める
 周辺中心市街地のメインストリートである桃太郎大通りを駅前広場と一体的にデザインすることにより、周辺市街地へ人を誘導するようなエリア方針を検討します。
 夜の景色を演出する照明計画や、後樂園や岡山城、西川緑道公園などに溢れる緑の連続性をつくることで、まちの景観の向上を図り、岡山駅東口からまちへ繰り出す人々の岡山のまちへの期待が高まります。また、あかりやみどりのマスタープランを検討します。

●桃太郎大通りから周辺施設へ回遊性を高めるスポットをつくる
 岡山駅東口駅前広場から桃太郎大通りへ出た歩行者を岡山カルチャーゾーンだけでなく、さらにまちなかへと回遊させる「まち発信スポット」を、桃太郎大通りに沿って検討します。



●地元まちづくりNPOを巻き込み、まちの魅力や課題を見つける
 住民が地域の課題を見つけ、問題解決をしてゆく参加型のまちづくりを実践している地元まちづくりNPOとタッグを組み、「人の流れのデザイン」を住民と共に検討します。右図のように市街地には多くの集客施設が溢れていますが、これをベースに、住民のみならずさらなる魅力の発掘や課題の分析を行ってゆきます。
 住民の手による積極的なまちづくりを行うことが、このまちをより生き生きとさせることにつながると考えています。

